

OMM JAPAN イベントディレクターレポート

今回のOMM JAPAN 2017 NOBEYAMA KOGEN は過去最大規模となる1,300人も参加者が集まり、寒さの厳しい11月中旬の八ヶ岳裾野の野辺山エリアで2日間にわたり開催されました。

このイベントが日本で開催されてから今年で4年目となりますが、年々参加者のナビゲーションスキルをはじめ山岳地における安全管理の意識が向上していることは間違いありません。なにより厳しい2日間をすべての参加者が自身の力で安全に帰還することが優先されなければならないというイベントの特性とそのOWNリスクの精神に対する理解が深まっていることを実感しています。

同時に私たち運営チームはこのイベントのさらなる質の向上や追求を求められていることを強く意識しなくてはなりません。そのためにも参加者とのコミュニケーションをより一層を深め、多くの意見や感想を参考としながら、この日本の美しい大自然のもとで、タフでありチャレンジングであり、そして最高にエキサイティングなOMM JAPANをこれからも参加者とともに追求していきたいと思えます。

評価・課題・反省

1. 開催地・コース・安全管理

今年の開催エリアである八ヶ岳裾野の野辺山エリアは日本国内でも屈指の寒冷地として有名な地域でしたが、実際に当日のオーバーナイトキャンプでは場所によって最低気温がマイナス10度近くまで下がりました。また過去最大規模のスケールを生かしたMountainMarathonらしい走力や体力も必要とされるタフなコース、急峻な谷、沢、川の渡渉、笹藪などバリエーションに富んだトレイン（地形）、と昨年の課題としてあげた、天候の良し悪しにかかわらず、すべての参加者にとって”チャレンジング”な2日間を用意するという我々運営チームがこの1年で取り組んできたひとつの目標は実現できたと感じています。

このような場所での開催を決断できたのは昨年のOMM JAPAN 2016の結果と、イベント後に参加者に向けて実施したアンケート結果でOWNリスクの精神に対する理解が非常に深まっていることを確認出来たことが大きな要因となりました。

さらに、結果として今回過去最大規模の1,300人という参加者全員が自分自身でリスクをコントロールして2日目のFINISHに無事帰還できたことは非常に大きな意味をもっていると感じています。

今回のコース設定にあたりコースプランナー小泉を昨年の本国イギリスのTHE OMMに派遣し、実際にコンペティターとして参加して実際に体験してもらうことでオリエンテーリングやロゲイニングとも違うマウンテンマラソンのコースの理解をより深めてもらいました。

この経験が大きく反映された今回のコースはStraightもScoreも一定の走力が必要とされる本国イギリスのMountainMarathonらしいタフなコースを実現できました。

しかしその反面として長いロードや林道を単調に走らなければならない区間が多くなってしまったことや、Scoreでの渋滞の問題、例年よりも戦略の選択の幅が減ってしまったという参加者の

意見も少なくありませんでした。本国のTHE OMMらしさを地形も植生も異なる日本のフィールドで追求したことによって、これらの新たな問題や課題も浮き彫りになりました。

広大な牧草地を有する圧倒的なスケールの中で繰り広げられる本国英国のTHE OMMとは地形も植生もまったく違うこの日本でどのような魅力的なマウンテンマラソンのレースを作り上げていくべきか、開催地選定、コース設定にも直結するこの問題はこれからもOMM JAPANを開催していくうえでもっとも大きな課題であり続けます。しかしその答えを参加者と運営チームが共に追求していく過程もまたOMMの本質なのだと思います。

ここから新たに来年のOMM JAPAN 2018に向けて準備を進めていきたいと思います。

※コースプラン、振り返りの詳細はコースプランナー小泉氏のレポートを参照してください。

また、今回コース作成において競技チームとは別に（共同で）安全管理チームも”安全管理の目線”から現地調査に入り落石や滑落の危険があるエリアの特定、その結果を競技チームと連携しながらコース作成を進めてもらいました。

その詳細は安全管理チーム村越氏のレポートを是非参照してもらいたいと思いますが、今回非常に大きな役割を果たしてくれた安全管理チームの村越真氏、宮内佐季子氏にはこの場を借りて感謝をします。

2. イベントセンター・オーバーナイトキャンプ

・イベントセンター、オーバーナイトキャンプの位置関係はOMMのコースプランニングにおいて非常に重要な要素となります。今回はこの位置関係（その他の規制区域も含む）がコースプランニングチームにとって大きな障害となってしまったことをはじめに反省としてあげたいと思います。同時にこのような困難な課題を乗り越えて今回も素晴らしいコースを作り上げてくれたコースプランナー小泉氏とチームに心から感謝します。

この点については来年以降の重要な課題としてあげますが、決してコース最優先でもなくイベントの総合的なバランスを見ながらこれからも参加者にとって素晴らしい経験となるような最良の場を選定していきたいと思います。

・今年のイベントセンターは昨年、一昨年のようなスキーリゾート施設ではなかったため事前のプランニング、準備には例年以上に苦労をしました。OMM JAPANでは参加者が受付に来たその瞬間から特別な時間と経験を体験してもらいたいと考えていますが、今回会場のレイアウトや雰囲気作りはイベントセンターとなった滝沢牧場の雰囲気を最大限に生かしたのではないかと思います。また駐車場についても今回は昨年大会の反省を生かし、サイン、誘導人員を増やすことでスムーズに誘導ができました。

反省点としては、受付会場からのレストランへの導線が分かりやすくなかったことをあげます。

・オーバーナイトキャンプは今回も壮大で美しいロケーションを提供できたのではないかと思います。DAY2朝の朝焼けとともに見ることができた美しい八ヶ岳は、誰もが生涯の思い出となるような特別な景色になったのではないのでしょうか。これからもOMM JAPANだからこそ経験できる特別な一晚を出来る限り実現できるようにしていきたいと思います。

・また、今回のオーバーナイトキャンプははじめて水道設備のないロケーションとなりました。できるだけ参加者にストレスをかけずに水を提供するために様々な方法を検討しましたが、給水車の手配の難しさやコストの面の問題など事前のプランニングには苦労しました。結果としてタンクとバケツ、ひしゃくを使った原始的な方法での給水となりましたが、担当スタッフ、ボランティアの頑張りとチームワークのおかげで参加者に大きなストレスもかけずに2日間ともスムーズに給水ができました。

しかし大きな反省点として、このセクションを担当したスタッフ、ボランティアに過度な負担を掛けてしまったことをあげます。とくにボランティアで手伝って頂いている方には、作業にかかりきりにならないように余裕をもった人員確保と、イベントの様子を見たりコンペティターとして参加している友人達とコミュニケーションをとったりと自由に楽しむ機会をもっと増やさなければならぬと感じました。この反省を来年以降の大きな課題としてあげたいと思います。

また今回の嬉しい想定外としてこの給水場が運営スタッフと参加者の良いコミュニケーションの場となり、多くの参加者からここでイベントのコースの感想や様子などを聞く事が出来たことをあげます。

今後も運営スタッフと参加者がイベント期間中にコミュニケーションをとれる機会を増やしていきたいと思います。

3. マーシャル・スタッフ・ボランティア

今年も多くスタッフ・ボランティアに運営チームとしてイベントに参加してもらいました。毎回共にイベントの成功を願い使命感をもって運営にあたってくれるすべてのスタッフ・ボランティアに心から今一度心からの感謝をしたいと思います。同時に、まだまだイベント中のスタッフ・ボランティアの環境を改善しなければならない部分の多さを痛感します。

とくにボランティアの皆さんの運営に関わる時間と、自由な時間の割合については各チームリーダーと今回の状況を確認・検証しながら来年の課題としたいと思います。

コンペティターだけではなくスタッフ・ボランティア、すべてのイベント参加者にとって、素晴らしい経験となるOMM JAPANをこれからも目指していきたいと思います。

THANK YOU FOR ALL

OMM JAPAN 2017をともに作り上げてくれた仲間感謝を贈ります。

TEAM OMM JAPAN

Communications Director Jeff Jensen

渉外 我部乱 (有限会社エクストレモ)

Event HeadQuarter 細谷かこ

Technical Director 田島利佳 (TEAM 阿闍梨)

Course Planner 小泉成行 (公益社団法人日本オリエンテーリング協会)

計測・リザルト 大場隆夫 (公益社団法人日本オリエンテーリング協会)

スタート・フィニッシュ 田畑清士 (公益社団法人日本オリエンテーリング協会)

安全管理マネージャー 村越真 (NPO 法人 M-nop)、宮内佐季子

スタッフ・ボランティアとして参加してくれた皆様

南牧村
滝沢牧場スタッフの皆様
長野県南牧村・観光課職員の皆様
南牧村商工会青年部・婦人部の皆さま

TEAM OMM
OMM Events Director Stuart Hamilton
Race Coordinator Dave Chapman

ALL Competitors
OMM JAPAN 2017に参加してくれたすべてのコンペティターの皆様

ありがとうございました
OMM JAPAN EventDirector 小峯秀行